

令和2年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト」

(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業) 成果報告書

令和2年度 障がい者スポーツ 推進プログラム



令和3年3月 徳島県

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、徳島県が実施した令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

本県におきましては、平成28年4月、障がい者が自立して社会参加し、自己の個性や能力を発揮することができる社会の実現を目指す「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」を施行し、その理念を実現するべく平成30年3月には、新たな「徳島県障がい者施策基本計画」を策定し、「障がい者スポーツの振興」に一層力を注いでいるところです。また、令和2年度には、本県がめざすダイバーシティ社会の理念と方向性を示す「ダイバーシティとくしま推進方針」を策定するとともに、誰もが取り組める障がい者スポーツを通じた交流促進と活躍推進を積極的に図るなど、多様な人々が共生し、交流し、活躍する「ダイバーシティとくしま」の実現に向けた取組みを進めているところです。

パラリンピックの開催を控え、障がい者スポーツへの関心が高まる中、本県では、平成27年度から平成29年度にかけて、スポーツ庁委託事業「地域における障がい者スポーツ普及促進事業」に取り組み、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツ活動に取り組める環境づくりのための「実践研究」事業を実施して参りました。また、障がい者スポーツの裾野の拡大、競技力の向上、相互理解の視点から、スポーツ部局、教育委員会、有識者、障がい者スポーツ関係団体等との「連携・協働体制」の構築を図ってきました。

本事業は、上記3ヶ年の「実践研究」の成果を発展させることを目的に、平成30年度から取り組み、地域における課題解決の検証を進め、各団体が持つノウハウを活用しながら、障がい者の方が身近な場所でスポーツを実施するために有する課題や課題解決のための事業を実施し、実施した事業から見えてきた新たな課題を県内障がい者スポーツ関係団体と共有しました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な活動に大きな制約が課された1年でありましたが、「新しい生活様式」にも対応しながら、関係機関の皆様と連携し、事業を実施いたしました。

本プログラムは、令和2年度に実施した成果を検証し作成したものです。多くの方々にご覧いただき、忌憚のない御意見、御助言を賜れば幸いです。今後更に、これまでの成果を発展させるとともに、課題解決の検証を進め、障がい者スポーツの普及促進を図っていきたいと考えております。

最後になりますが、本事業の実施に当たり、御指導、御協力を頂いた、関係機関の方々や学校等の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

令和2年度障がい者スポーツ推進プログラム（目次）

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

1 事業の目的	1
2 実施事業の概要	1
3 事業効果	1
4 まとめと今後の課題	2
5 取組概要	3

II 実行委員会

1 会議の目的	4
2 検討事項	4
3 委員名簿	5
4 成果及び評価	6

III 実施事業

1 特別支援学校とスポーツ関係機関との連携による継続的なスポーツ参加促進 モデル構築事業	
(1) はじめに	7
(2) 事業の目的	7
(3) 事業の概要	7
(4) 成果及び評価	7
2 障がい者スポーツ理解促進事業	
(1) はじめに	2 2
(2) 事業の目的	2 2
(3) 事業の概要	2 2
(4) 成果及び評価	2 4
3 共創共楽スポーツ推進事業	
(1) 事業の目的	2 7
(2) 事業の概要	2 7
(3) 取組内容	2 7
(4) 実施の効果とあい路	3 2
(5) おわりに	3 3

I 障がい者スポーツ推進 プロジェクト

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

1 事業の目的

地域において継続的な障がい者スポーツの実施促進を進めるに当たっては、障がい者スポーツへの「参加機会の拡大」やそれに携わる「人材の育成」、さらには、「地域住民との交流」も含めた環境づくりが重要である。

本県においては、平成27年度より、「地域における障害者スポーツ普及促進事業」に取り組み、障がい福祉部門、スポーツ振興部門、教育部門といった行政部局に加え、県内スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が連携し、障がい者スポーツの普及促進に係る全県的な実行委員会を組織し、関係者間の「顔の見えるネットワーク体制づくり」を進めてきたところである。

これまでの成果を踏まえ、多角的な視点からの検討や、各団体が持つノウハウを活用しながら、生涯に亘るスポーツ活動の環境整備を目指し、新たな事業の展開と深化を図ることとした。また特に、今年度は、「新型コロナウイルス感染症」への対応として「新しい生活様式」に即した取組みの実施等、事業の継続性について留意した。

障がい者スポーツの普及促進を図るにあたっての課題に対応し、スポーツ活動の習慣化につなげるとともに、コロナ禍における事業継続、障がい者の視点に立ったモデル事業、障がい者スポーツの振興、さらには障がい者の自立と社会参加を促進していくことを目的とした。

2 実施事業の概要

(1)「徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」の設置

(2) 事業内容

障がい者スポーツの「参加機会の増加」、「裾野の拡大」、「交流の活発化」を目指し、従来の「障がい福祉」からのアプローチのほか、スポーツ部局との連携やスポーツの持つ情報発信力と交流機能の活用といった視点から、以下の事業を実施した。

- ①特別支援学校とスポーツ関係機関との連携による継続的なスポーツ参加促進モデル構築事業
- ②障がい者スポーツ理解促進事業
- ③共創共楽スポーツ推進事業

3 事業効果

これまで実施してきた事業を通して構築された連携体制やノウハウを生かしながら、障がい者スポーツ施策を効果的に進めることができ、身近な地域でスポーツを行う機会の提供、スポーツを通じた障がい者の健康増進、加えて、障がいのある人とない人との交流が深まり、障がい者スポーツへの理解が一層促進されるよう、共生社会の実現に向けて確実に歩みを進めているところである。また、コロナ対応として、従来どおりの実施方法の変更が余儀なくされたところであったが、これまでの実践で築いてきた体制のもと、創意工夫をこらし、十分な事業効果を発揮した。

4 まとめと今後の課題

各事業において、継続的な障がい者スポーツの実施機会の提供や人材育成等を行うことで、学校や地域の総合型スポーツクラブ等において、障がい者スポーツの取り組みが定着してきている。加えて、県内の障がい者スポーツ競技団体に所属する障がい当事者が、障がいのない人へスポーツを教える機会も増加しており、支援される対象となる「障がい者」支援をする「健常者」といった従来の価値観の転換が起きている。こういった中、事業への参加者からは、「大変楽しかった」、「また参加したい」といった声をいただき、障がい者及び障がい者スポーツへの関心の高まりはもとより、地域を巻き込んだ障がいのある人とない人との交流も生まれ、共生社会の実現に前進している。

一方、身近な地域で継続的にスポーツ活動に取り組める環境づくりのためには、障がい者スポーツを実施できる拠点となる施設が不足している又は知られていない、あるいは地域内で柔軟に活動できる指導者が不足しているといった課題への対応、そして生徒が学校で恒常的に障がい者スポーツを体験・学習できる環境を整備することや生徒卒業後の受け皿を確保・強化すること、さらには障がいのない人が障がい者スポーツの楽しさを実感し、障がい者とともに普及に取り組むことといった好循環を創出していく必要性が高いと考えられる。

事業実施により抽出されたこれらの課題の共有し、それらの解決と新たな展開に向けて障がい者スポーツの一層の普及促進を行っていききたい。

【概要】障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）

【現状・課題】

- ◆市町村に障がい者スポーツ担当課無し
- ◆地域の障がい者スポーツチームの高齢化・メンバー減少
- ◆障がい者スポーツ無関心層へのアプローチ
- ◆柔軟に地域で活動できる指導者の確保

【課題解決に向けた方向性】

- ◆総合型地域スポーツクラブの環境整備
- ◆特別支援学校でのパラスポーツ体験・指導
- ◆訴求力のある関連コンテンツの有効活用
- ◆地域スポーツ人材等の育成に向けた研修

- ◆全県下を対象！障がい者スポーツ実施環境の整備
- ◆コロナ禍における事業継続「新しい生活様式」に対応

誰もが障がい者スポーツに関心を抱き、携わることができ、どこでもスポーツができる環境づくりの推進！

徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会

学識経験者、障がい当事者団体、スポーツ団体、行政機関で構成

- ・福祉関係者とスポーツ関係者を繋ぐ連携体制の構築
- ・障がい者スポーツの普及・方策の検討
- ・事業の進行管理、事業成果の検証

事業実施団体

教育庁、行政スポーツ部局と民間団体で連携し事業を実施

- ・徳島県教育委員会特別支援教育課
- ・徳島県障がい者スポーツ協会（ダイバーシティ推進課）
- ・（一財）徳島県スポーツ振興財団（スポーツ振興課）



効果的な方策を検討、事業実施団体間の連携による事業展開

県教育委員会特別支援教育課

特別支援学校とスポーツ関係機関との連携による継続的なスポーツ参加促進モデル構築事業

- 県内特別支援学校5校をモデル校として選定
- ニーズに応じた指導員を派遣し、児童生徒の身体能力の向上、卒業後のスポーツ継続意欲の醸成、同時に教員と指導員を共有し、授業等での継続的な取組みを支援

- 回数：3～4回実施
- 内容：バスケットボール、ボッチャ、体幹トレーニング等
- 効果：①児童生徒の身体能力の向上（マラソンのタイムの向上等）
- ②指導員が共有によるスポーツ教育効果の向上



- ・学校卒業後のスポーツ実施地点の更なる開拓が必要
- ・同時に、在学中から生徒が、クラブや地域のチームと関わる機会が必要

徳島県障がい者スポーツ協会

障がい者スポーツ理解促進事業

- 障がい者スポーツが体験できるイベントの開催
- 障がいのある人とならない人を対象とした障がい者スポーツイベントを、「新しいカタチ」として、リアルとオンラインを融合した形式で開催。
- 外出制限のある施設と会場をオンラインで結び、スポーツ交流

- 内容：①講演会（電動車いすサッカー）
- 講師：多田羅 勝義 氏（日本代表チームドクター）
- ②体験・交流会
- ボッチャ・フライングディスク



- ・オンライン参加ができる施設の開拓（事業成果周知等による）が必要
- ・オンライン参加者に、会場来場者と同様の満足度を得るための工夫が必要

（一財）徳島県スポーツ振興財団

共創共栄スポーツ推進事業

- 総合型地域スポーツクラブでの障がい者スポーツの理解の促進
- クラブでのスポーツプログラムの実施や、クラブ関係者等を対象とした障がい者スポーツセミナー等の開催によるクラブの活動支援

【講習会：障がい者スポーツフォーラム】

- 講師：安藤 佳代子 氏（日本福祉大学 助教）
- 西上 勝 氏（徳島フライングス代表）
- 遠藤 恭弘 氏（徳島県障がい者スポーツ協会指導員）

内容：障がい者スポーツ推進の意義

スポーツを通じた共生社会の実現に向けて

【地域での体験会開催】

- 内容：総合型地域スポーツクラブや徳島県障がい者スポーツ協会等と連携し、地域住民を対象とした障がい者スポーツ体験会を開催



オンライン活用



- ・障がい者スポーツの実施実績の無い総合型地域スポーツクラブの開拓
- ・障がい者スポーツ関係機関・団体等との推進体制の構築

身近な地域でスポーツを行う機会拡大と更なる障がいへの理解の促進！

誰もが障がい者スポーツを通していきいきと活躍し交流する社会の実現

Ⅱ 実行委員会

Ⅱ 実行委員会

1 会議の目的

昨年度に引き続き、「徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」を設置し、障がい者が、身近な地域でスポーツに参加できるよう、その障がいの種類及び程度に応じたスポーツ活動への参加の機会を提供し、生涯に亘って、スポーツに親しむことができる方策等について検討する。

2 検討事項

- ・ スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が、各地域で連携、協働し、障がい者スポーツの普及啓発の方策を検討することができる体制の強化
- ・ 障がい者スポーツの普及啓発の方策等を検討し、事業の進行管理、事業成果の検証等を行い、障がい者スポーツ推進プログラムをまとめる。



3 委員名簿

区 分	所 属・職 名	氏 名	備 考
学識 経験者	徳島大学大学院教授	佐藤 充宏	委員長
	徳島文理大学教授	森泉 摩州子	
障がい 者当事 者団体	徳島県身体障害者連合会事務局長	天羽 浩司	
	徳島県手をつなぐ育成会事務局長	福田 清	
スポー ツ関係 団体	徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長	新久保 眞度	
	徳島県スポーツ振興財団常務理事事務局長	仁木 芳宏	
	徳島県障がい者スポーツ協会次長兼係長	篠原 崇	副委員長
行政職	徳島県未来創生文化部ダイバーシティ推進課長	大岡 士郎	
	徳島県未来創生文化部スポーツ振興課長	松本 光裕	
	徳島県保健福祉部障がい福祉課長	藤井 宏孝	
	徳島県教育委員会特別支援教育課長	猪子 秀太郎	
	徳島県教育委員会体育学校安全課長	吉岡 直彦	

4 成果及び評価

(1) 開催実績等

第1回 令和2年7月31日(金)

(議事)

- ・委員長及び副委員長の選任について
- ・令和2年度「障がい者スポーツ推進プロジェクト」について

第2回 令和2年12月18日(金)

(議事)

- ・各事業の中間報告について

第3回 令和3年3月24日(水)

(議事)

- ・令和2年度成果報告書(案)について
- ・令和3年度実施計画(案)について

(2) 評価

当該事業の実施にあたり、実行委員会を立ち上げたことで、関係者同士がネットワークを構築でき、障がい者スポーツへの取組みが、非常に円滑に推進されたことに加え、有識者の専門的視点や障がい当事者団体から障がい者の目線に立った意見をいただき、多角的視点による事業展開が可能となった。

また、各事業実施主体が事業の情報を共有することによって、連携事業を開催したり、障がいのある人もない人も一緒になってスポーツを楽しむ機会の創出に繋げる等の展開が見られた。

Ⅲ 実施事業

Ⅲ-1 特別支援学校とスポーツ関係機関との連携による継続的なスポーツ参加促進モデル構築事業 徳島県教育委員会特別支援教育課

1 はじめに

知的障がいのある人の余暇活動の重要性が指摘され、その中でもスポーツ活動は彼らの QOL（生活の質）を高めるといわれている。障がいのある児童生徒が早い時期に、スポーツを「知る」ことは重要であり、生徒の卒業後の余暇活動の充実につながる学齢期のスポーツ活動の取組が求められている。

県内の多くの特別支援学校では「体づくり」としてマラソンが実践されたり、放課後活動でスポーツに取り組んだりしているところであり、近年は、ボッチャなどのパラスポーツにも関心が高まっている。障がいのある児童生徒が地域において、気軽に・楽しく・目標をもってスポーツを楽しむことができるようにさまざまな活動に生かせる体づくり等の取組を行い、基礎的な体づくりを目指す。また、スポーツをとおして地域との交流を深められるよう、地域のスポーツ大会やスポーツイベント等への参加を目指して実践を行う。

2 事業の目的

関係機関と連携し、特別支援学校での体育の授業や放課後の時間等に取り組むスポーツ活動に外部の専門家を派遣することにより、障がいのある子どもたちが、スポーツの競い合う楽しさや達成感の体得、健康な体づくり、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できる資質や能力の基盤等を育てるとともに、障がい者スポーツに関する教員の指導力の向上を図る。

3 事業の概要

特別支援学校でのスポーツスキルアップ

(1) 実施内容

「徳島県障がい者スポーツ協会」や「徳島県トレーナー協会」等、関係機関とのネットワークを活かし、特別支援学校に障がい者スポーツ指導員の資格を有するトレーナーを派遣し、様々なスポーツに対応できるコンディショニングの活動をとおして、子どもたちの障がい特性に応じたスポーツスキルを向上させ、スポーツを楽しむことの意識付けや、継続的なスポーツ活動の実施へとつなげる。

また、特別支援学校においてスポーツを指導する教員についても、専門家による指導方法を体得することで、児童生徒に対する日頃のスポーツ指導のスキル向上に活かす。

(2) 実施計画

- ① 場 所 徳島県立国府支援学校、徳島県立阿南支援学校、徳島県立阿南支援学校ひわさ分校、徳島県立池田支援学校、徳島県立みなと高等学園
- ② 対 象 者 特別支援学校に通う児童生徒
- ③ 実施回数 指導者派遣を各校年間4回行う

4 成果及び評価

特別支援学校でのスポーツスキルアップ

県内特別支援学校5校で取り組んだスポーツスキルアップについての各学校からの報告は、以下のとおりである。

(1) 国府支援学校

① 学校のプロフィール

国府支援学校は、徳島市西部の閑静な穀倉地帯に位置する知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校である。児童生徒の障がいの状態は重度化、多様化してきているが、一人一人の可能性を最大限に伸ばし、社会自立できることを目標にして、小学部83名、中学部82名、高等部113名、計278名の教育を行っている。隣接の障害児入所施設未来から45名、寄宿舎から21名、スクールバスなどで自宅から212名が通学している。

学校教育目標を「児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、自ら生きる力を養い、社会的に自立できる、心身ともに豊かな人間を育成する」とし、4つの「生きる力」を掲げている。4つの「生きる力」とは「生活する力」「豊かな心にする力」「健やかな体にする力」「自立する力」であり、各学部、寄宿舎の目標として位置づけ、個々の児童生徒の実態や興味関心に応じた指導を行っている。

今回の対象生徒は、高等部スポーツ部に所属している生徒11名である。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和2年 12月3日（木） 15:00～16:00	<p>1 外部講師によるバスケットボールの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：徳島県障がい者スポーツ協会 遠藤 恭弘 氏 ・場所：国府支援学校体育館 ・内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 準備体操 ② 柔軟性向上トレーニング（全身の体幹を鍛える動き） ③ ボールハンドリング <ul style="list-style-type: none"> ・首、腰、膝周りでボールを回す。 ・その場で、高さを変えながらドリブルする。 ④ ドリブルムーブ <ul style="list-style-type: none"> 走る、横にジャンプ、ターンをそれぞれしながらドリブルする。 ⑤ シュート練習 <ul style="list-style-type: none"> ・45°の角度からシュート（少しずつ距離を離していく。） ・フリースロー 	高等部スポーツ部生徒11名
令和3年 1月13日（水） 15:00～16:00	<p>2 外部講師によるバスケットボールの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：徳島県障がい者スポーツ協会 遠藤 恭弘 氏 徳島石井アチーブコンディショニングスタジオ代表 加藤 達也 氏 ・場所：国府支援学校体育館 ・内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 準備体操 	高等部スポーツ部生徒10名



・バスケットボール競技に必要なボールの扱い方について、基礎から楽しく取り組むことができる活動について指導助言を受けた。ボールに対する感覚を全身で養う。

	<p>② 柔軟性向上トレーニング（全身の体幹を鍛える動き）</p> <p>③ ボールハンドリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片足を上げたまま、ボールを首、腰、膝周りを回しながら前進。 ・その場で、高さを変えながらドリブルする。 <p>④ ペアを作り、一人が相手の背中を押して進む。</p> <p>⑤ ダッシュとストップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールなし。 ・ドリブルをしながら行う。 <p>⑥ ドリブルムーブ</p> <p>⑦ シュート練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール下にてオーバーハンドとアンダーハンド 	
<p>令和3年 2月3日（水） 15:00～16:00</p>	<p>3 外部講師による教員に対するトレーニング方法の実践指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：徳島県障がい者スポーツ協会 遠藤 恭弘 氏 徳島石井アチーブコンディショニングスタジオ代表 加藤 達也 氏 ・場所：国府支援学校体育館 ・内容： <p>① 準備体操</p> <p>② 柔軟性向上トレーニング（全身の体幹を鍛える動き）</p> <p>③ ミニハードルを使った連続ジャンプ、ダッシュ</p> <p>④ ボールハンドリング</p> <p>⑤ ドリブルムーブ</p> <p>⑥ シュート練習</p>	<p>国府支援学校教員10名</p>
<p>令和3年 2月24日（水） 15:00～16:00</p>	<p>4 外部講師によるバスケットボールの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：徳島県障がい者スポーツ協会 遠藤 恭弘 氏 徳島石井アチーブコンディショニングスタジオ代表 加藤 達也 氏 ・場所：国府支援学校体育館 ・内容： <p>① 準備体操</p> <p>② ランジ</p>	<p>高等部スポーツ部生徒11名</p>



バスケットボール競技に役立つ、全身の筋力や柔軟性を高めるトレーニング方法やボールの扱い方について指導助言を受けた。



	<p>③ サイドキック</p> <p>④ 片足で横へ連続ジャンプ</p> <p>⑤ ダッシュ</p> <p>⑥ ドリブルダッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左右交互に手を代えながら ・コーンの周りを、外側の手でドリブルしながらダッシュ ・内側の手でもう一度ダッシュ ・外側の手でドリブルし、内側の手でマーカーを取りダッシュ <p>⑦ シュート</p> <p>45°の角度からゴール下で、オーバーハンドとアンダーハンドのシュート練習。</p> <p>バスケットボール競技に必要なフットワークと、ドリブル、シュートについて、基礎から楽しく取り組むことができる活動について指導助言を受けた。マーカーや大きさの違うコーンなど、前回とは違う道具を工夫して使用したトレーニングだった。シュート練習は前回までの内容を確認し、技術の定着を図った。</p>	
--	--	--

③ 活動の成果

スポーツ部の生徒に向けて、バスケットボール競技に必要な、全身やボールを扱う技術指導をしていただいた。また教員向けに、今後の指導に活かせる全身のトレーニング法についての指導をいただいた。体幹を意識し、自分の体をイメージ通りに扱う技術を向上させ、その上でボールの扱いが上達するような順序でプログラムを組んでいただいた。従来バスケットボールを含む多くのスポーツが、発達段階の早い時期から経験を積んだ方が、繊細な技術や試合の感覚は身につけやすいと考えられている。本校スポーツ部に所属しているほとんどの生徒は、入部するまでバスケットボールの指導を基礎から丁寧に受けた経験がほとんど無いため、シュート力にも大きく影響しており、普段の練習の中で、その確率向上にどのような指導がよいのか試行錯誤していた。今回のプロジェクトの中で、まずは全身を扱う技術の向上と、シュートの一連の動きを細分化して、段階的に感覚を体へ記憶させていく指導を実践していただいた。部員たちの体の硬さや癖が抜け、全体的にシュート成功率が向上している。シュート練習に対する前向きな姿勢も身につけて、ゲーム中に積極的にシュートを決めようという意欲が増したと感ぜられる。

④ 今後の課題

今回は近い距離のシュート力の向上が見られたため、今後は少しずつその距離を伸ばしていく。また、レイアップシュートの前段階までを細分化してトレーニングしたことを今後も基礎練習で繰り返して、段階的に発展させていくために、生徒たちが意欲的に取り組めるような働きかけが必要である。また、試合をする上で必要なゲーム感覚を身につけ、シュート以外のスキルアップやポジショニングの学習など、残された課題を克服していく必要がある。生徒たちが今回学んだ内容を実際に試合の中で活用し、自信を持てるように根気強く指導していきたい。

(2) 徳島県立阿南支援支援学校

① 学校のプロフィール

阿南支援学校は、徳島県南の阿南市上大野町と吉井町との境にある阿南市内を一望できる城山の中腹に位置し、近くには「阿南西部公園」も設置され、野鳥の鳴き声が聞こえてくる豊かな自然に囲まれた環境の中にある。JR 阿南駅から約10km 離れ、路線バスの便数も少なく、学校下の長い坂

道を上って自転車で通学する生徒もいるが、児童生徒が一人で通学するには不便な場所にある。

本校は知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、令和2年度は小学部31名、中学部34名、高等部50名の計115名が在籍している。小・中学部については、地元の学校への就学志向が見られるが、障がい児への専門的な教育を希望し本校へ入学する者も多い。高等部については、普通科と生活科学科と産業工芸科を設置し、将来の社会（就業）自立・参加への期待も大きく、広い地域からの入学希望者がある。

児童生徒の運動課題として、基礎的な身体の動きを身につけること、体力づくり（筋力・持久力の向上、体幹強化、身体のバランス力を高める等）、肥満防止とたくさんあげることができる。日頃から運動する習慣をつけ、正確な身体の動きを身につけていろいろな力の向上へつなげていきたいと考えて取り組んだ。中学部では、昨年に引き続き、地域の駅伝大会と本校中学部全生徒で行う校内駅伝大会を目標に取り組んだ。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和2年 11月11日（水） 10:40～11:20	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：ピラティスアンドコンディショニングリライズ 吉成 侑弥 氏 ・場所：阿南支援学校体育館 ・内容 <ul style="list-style-type: none"> ①講師紹介 ②準備運動（ストレッチ） ③身体の使い方を意識した動き（手足の協応） ④グループに分かれて <ul style="list-style-type: none"> ・スラローム ・マット運動（横転） ・ミニハードルを使用しての両足ジャンプ ・ケンケンパー ⑤整理運動 	中学部 ABグループ20名（男子11名・女子9名）
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>準備運動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>手足の協応</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スラローム</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>マット運動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ミニハードル・ケンケンパー</p> </div> </div>	
令和2年 12月18日（金） 9:40～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：ピラティスアンドコンディショニングリライズ 吉成 侑弥 氏 ・場所：阿南支援学校体育館 ・内容 <ul style="list-style-type: none"> ①はじめのあいさつ（講師紹介） ②準備運動（ランニング・ストレッチ） ③身体の使い方を意識した動き（おしり歩き 等） ④マット運動（膝立ち歩き・横転・前転 等） ⑤フープを使っでのジャンプ（両足跳び・片足跳び） 	小学部10名 （小学1～6年生10名）

⑥走る・止まる運動
⑥おわりのあいさつ



準備運動 (ストレッチ)



高這い



おしり歩き (後ろ)



膝立ち歩き (前)



横転



両足ジャンプ

令和2年
12月18日 (金)
10:40~11:20

- ・講師：ピラティスアンドコンディショニングリライズ 吉成 侑弥 氏
- ・場所：阿南支援学校運動場
- ・内容
 - ①講師紹介
 - ②準備運動 (ストレッチ) ③ランニング
 - ④鬼ごっこ
 - ⑤グループに分かれて
 - ・ラダー&ダッシュ
 - ・ミニハードル&ダッシュ
 - ⑤整理運動

中学部
AB グループ20
名 (男子11名・
女子9名)



準備運動



ランニング



ラダー&ダッシュ



ハードル&ダッシュ

令和3年
1月20日 (水)
10:40~11:20

- ・講師：ピラティスアンドコンディショニングリライズ 吉成 侑弥 氏
- ・場所：阿南支援学校運動場・校舎外周
- ・内容
 - ①講師紹介
 - ②準備運動 (ストレッチ) ③ランニング
 - ④身体の使い方を意識した動き
 - ・ラダーを使用した運動
 - ・フットワークトレーニング

中学部
AB グループ20
名 (男子11名・
女子9名)

- ・ポストバーを使用してのジグザグ走
- ⑤校舎外周走 (330m × 3セット)
- ⑥整理運動



ラダー



フットワークトレーニング



ポストバーを使用してのジグザグ走



校舎外周走

③ 活動の成果

【小学部】

身体の使い方を意識した運動とマットやフープを使用した運動を行った。身体の使い方を意識した運動では、おしり歩きを中心に行った。はじめは前や後ろに進むことが難しい児童もいたが、講師の指導を受け、徐々に前や後ろに進むことができるようになった。マットやフープを使用した運動では、横転や両足ジャンプ等を行った。児童たちが講師の動きに注目して、意欲的に取り組んでいる姿が多く見られた。

今回の取組に参加して、普段の授業で行わないような活動を体験することができ、今後の指導に生かす方法を身につけることができたと考えている。児童たちも普段とは違った講師との関わりや指導を受け、身体を動かすことの楽しさを実感することができたと感じている。児童だけでなく教員にとっても有意義な時間となった。

【中学部】

中学部では、日常生活や体育の授業の様子を見て、身体を上手く使うことができずにいる生徒や体幹が弱く、バランスが悪い生徒が多いことが分かった。そこでスポーツスキルアップ事業で専門的な指導をいただき、課題克服に繋がればと考えた。講師の吉成先生は一昨年、昨年に引き続き講師として来てくださったので、生徒たちの多くが吉成先生のことを知っており、リラックスして授業に取り組むことができた。

中学部の3回の授業では、ストレッチ等の準備運動、ラダーやミニコーンを使った足の運びや足首強化、体重移動 (バランス感覚)、ランニングフォームの確認等を行った。腕の振りや足上げ、手と

足と目の協応動作を意識した指導を多く取り入れてくださり、生徒たちも徐々に身体の動かし方を理解できるようになった。その一方で、身体の部位を思うように動かすことができず、活動の中で指示された動きに苦戦している生徒もいた。ボディイメージが持ちにくいことから、動かす部位を具体的に指示したり、実際に部位に触れて力の加減を伝えたりすることで、指示された身体の部位を動かすことができるようになりつつある。

また中学部では、今年も校内駅伝大会開催と地域の駅伝大会参加を決めていたため、タイムトライアルや駅伝の実践を取り入れてくださり、生徒たちは大会を意識して取り組むことができた。1月24日（日）には地域の駅伝大会に中学部から2チームがエントリーして出場する予定であったが、天候に恵まれず雨天中止となった。大会が中止となり、出場予定であった生徒たちのほとんどが、「練習してきたのに辛い」と悔しそうにしていた。しかし、2月8日（月）に中学部全員参加の校内駅伝大会を開催することを伝えると、気持ちを切り替えて校内駅伝大会で活躍することを目標に日々の練習や授業に取り組むことができている。トレーナーの吉成先生に教わったことや日頃のランニングの積み重ねから、生徒一人一人が持っている力を十分に発揮し、達成感を感じることができると期待している。

④ 今後の課題

【小学部】

今年度は、各クラスから運動機能を高めて欲しい児童を募っての参加となった。この体験を通して、参加した児童たちが少しずつ自信を持って活動に取り組む姿が見られたので、今後はより多くの児童たちに体験してほしいと感じた。また、教員にとっても今後の指導のヒントに繋がる良い機会だとも考える。

より多くの児童が参加できるよう、実態別のグループ分けを行い、このような活動の回数を増やしていく必要がある。そこで、事前に参加児童の実態を見てもらう機会を設けたり、綿密な打ち合わせを行ったりすることで更なる実態に応じた活動内容を行うことができると考えた。

【中学部】

中学部では、運動能力や身体機能を考慮して4グループに分かれて体育の授業を実施している。今年度も比較的高い運動能力や体力ある2グループの生徒を対象として行った。今回、外部講師から指導や助言をいただいたことを、中学部全体の持久力や筋力の保持増進と体力の向上に繋げていくために、参加できなかった生徒にも日頃の体力づくりや体育の授業で積極的に取り入れて指導していきたい。また、吉成先生の指導方法や指導内容を共有することができるような機会を設定したい。そうすることで、生徒に、より質が高い授業を多くの教員ができるようになり、生徒の運動に対する意欲も高まると考える。

今年度は、天候の関係で地域の駅伝大会への出場は叶わなかったが、来年度も駅伝大会への参加を希望したい。また、中学部の校内駅伝大会の開催に関しても継続していきたいと考えている。そして、運動する機会をもっと増やし、駅伝大会だけでなく、たくさんのスポーツに携わる機会を設けていきたい。また、生徒には、スポーツをとおして、同年代の子どもや地域の方との交流を図ることを目指して欲しいと思う。

(3) 徳島県立みなと高等学園

① 学校のプロフィール

徳島県立みなと高等学園は徳島県発達障がい者総合支援ゾーンにおいて高等学校発達段階の生徒を対象として社会的・職業的自立に向けた教育を行う機関として、平成24年4月に開校した。本校には「商業ビジネス科」「情報デザイン科」「生産サービス科」「流通システム科」の4つの学科が設けられている。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和2年 12月1日（火） 13:50～14:40	講師：ボッチャ協会 永井 明人 氏 場所：みなと高等学園体育館 教科：体育 ・ボッチャ説明（色々な投球法、試合の戦略狙うポイント等） ・投球練習 ・ゲーム	1年生10名 商業ビジネス科3名 情報デザイン科7名
令和2年 12月4日（金） 12:50～13:40	講師：ボッチャ協会 永井 明人 氏 場所：みなと高等学園体育館 教科：体育 ・ボッチャ説明（色々な投球法、試合の戦略狙うポイント等） ・投球練習 ・ゲーム	1年生16名 生産サービス科8名 流通システム科8名
令和2年 12月8日（火） ①11:10～12:00 ②13:50～14:40	講師：ボッチャ協会 永井 明人 氏 場所：みなと高等学園体育館 教科：体育 ・ボッチャ説明（色々な投球法、試合の戦略狙うポイント等） ・投球練習 ・ゲーム 	① 1年生10名 商業ビジネス科3名 情報デザイン科7名 ② 1年生16名 生産サービス科8名 流通システム科8名

③ 活動の成果

4月よりボッチャに親しみ、練習を重ねてきていたが、投げ方のコツや試合の戦略等について説明を受けることで、投球に上達が見られた。また、専門的な指導を受けたことで教員もポイントが理解でき、大いに今後の指導の参考になった。

④ 今後の課題

現在は体育の授業（校内での活動）のみの取組に留まっているが、今後は安全性や衛生面を確保した上で、地域交流や学校間交流時のよい活動ツールとして、積極的にボッチャを取り入れていきたい。

（4）池田支援学校

① 学校のプロフィール

池田支援学校は、三好市池田町東北部の山あい位置する、知的障がいの児童生徒を対象とした特別支援学校である。周辺には多くの福祉施設があり、地域一帯が『箬蔵福祉村』と呼ばれている。令和2年度は小学部25名、中学部25名、高等部38名、計88名が在籍している。そのうち隣接する児童福祉施設（池田学園）から通学する児童生徒が31名で約4割を占めている。近年は近隣の小・中学校の通常学級や特別支援学級から入学する児童生徒も増加傾向にある。本校は小学部「生活する力」、中学部「協力する力」、高等部「貢献する力」を育てる教育活動の実践を目指し、地域交流を基盤に、「地域とのつながりを密にした地域に開かれた学校づくり」のさらなる充実を推進している。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和2年 10月13日（火） 11:30～12:10	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：フライングディスク協会 二宮 章 氏 ・場所：箆蔵近隣公園グラウンド ・内容：フライングディスク競技の基礎について <ul style="list-style-type: none"> ①講師紹介・自己紹介 ②ルール説明 ③「アキュラシー」の練習 <ul style="list-style-type: none"> ・5メートル離れたアキュラシーゴールに向けて投球する。 ・ディスクの持ち方や投げ方等の基礎練習。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>・初めてフライングディスクをした生徒も、専門の指導者に投球方法などを基礎から教えていただくことで、短時間でコツをつかみ、5メートル離れたアキュラシーゴールに入れることができるようになった。</p>	中学部 体育 Aグループ 16名
令和2年 11月10日（火） 11:30～12:10	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：フライングディスク協会 二宮 章 氏 ・場所：箆蔵近隣公園グラウンド ・内容：フライングディスク「ディスタンス」種目 <ul style="list-style-type: none"> ①ウォーミングアップ ②ルール説明 ③「ディスタンス」の練習 <ul style="list-style-type: none"> ・順番にディスクを投げて、最も遠くに飛んだ地点までの距離を競う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>・ディスクをより遠くに投げる練習に取り組んだ。ルールも分かりやすく、ダイナミックに身体を使い、投球したディスクを取りに行くことで運動量も確保することができた。天候にも恵まれ、楽しく活動できた。</p>	中学部 体育 Aグループ 16名
令和2年 11月17日（火） 11:30～12:10	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：フライングディスク協会 二宮 章 氏 ・場所：箆蔵近隣公園グラウンド ・内容：ディスクゴルフ 	中学部 体育 Aグループ 16名

- ①ウォーミングアップ
- ②ルール説明
- ③「ディスクゴルフ」の練習

・3グループに分かれてゲーム形式で行った。



・前回までに練習してきたことを生かし、ディスクゴルフに取り組んだ。実際にコースを回りながらルールを教えていただいたので、非常に分かりやすく、各グループに分かれてゲームに取り組むことができた。

③ 活動の成果

ディスクゴルフの経験がない生徒も、専門の指導者に教えていただくことで、基礎から学ぶことができ、短時間で上達することができた。まず、ディスクの投球方法から練習を始めたが、40分間の授業のなかで、5メートル離れたアキュラシーゴールに入れることができるようになった。2回目は、ディスクに挑戦し、身体を大きく使ってディスクを遠くに投げる練習をした。ルールも分かりやすく、最初は動きが小さかった生徒も、より遠くに投げたいという気持ちから、大きく身体を動かすことができるようになった。投球したディスクを、何回も回収することで、運動量も確保できた。3回目は、ディスクゴルフに取り組んだ。実際にコースを回りながら、丁寧にルールを教えていただくことができた。投球方法などを基礎から練習してコースに出たので、3グループがスムーズに、コースを回ることができた。

ディスクゴルフはルールも分かりやすく、誰でも手軽に楽しむことができる。今回ゴールを購入していただき、ディスクゴルフができる環境が整ったことで、体育の授業だけではなく、学校行事や地域交流にも取り入れることが可能となり、スポーツをとおしての交流の幅が広がった。また今後、学校間交流等の際には、ルールの伝達など、本校生徒が主体となり活躍することも期待できる。

④ 今後の課題

ディスクゴルフは、本校の生徒にとっても手軽に取り組めて楽しめるスポーツである。今後、地域交流等で活用するためには、さらに用具を購入する必要がある。また、地域の大会への参加等、ディスクゴルフを推進していくためには、大会の参加費用や、タクシー借り上げなど、移動のための予算も必要になる。

また、生徒が卒業後にディスクゴルフを続けるためには、運動会や授業参観等で保護者と一緒にプレーし、ディスクゴルフの楽しさを共有する取組や、地域のスポーツクラブとの交流を積極的に行い、活動の場所を学校から地域へつなげる取組が必要である。

(5) 阿南支援学校ひわさ分校

① 学校のプロフィール

阿南支援学校ひわさ分校は、美波町を一望できる山際に位置し、近くには四国霊場23番札所薬王寺、ウミガメの上陸地で知られる大浜海岸、南阿波サンラインなどがあり、温和な気候と相まって

恵まれた自然環境の中にあるが、路線バス、JR ともに便数が少なく、交通の便は不便なところにある。

本校は、知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、今年度は小学部 1 名、中学部 5 名、高等部 7 名の計 13 名が在籍し自宅からの通学生と隣接する「障がい者地域生活自立支援センター」からの通学生がいる。

生徒の運動課題は体力づくりであり、運動する習慣を身につけ卒業後も利用施設等で活動することを考え、余暇活動や地域スポーツへの参加につなげていくことである。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和 2 年 10月29日（木） 9:35～10:20	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：西條接骨院 西條 誠人 氏 ・場所：阿南支援学校ひわさ分校体育館 ・内容 ① 歩き方のポイント ◎歩いてみる ◎足の指、足首のストレッチ（左右） <ul style="list-style-type: none"> ・座って右足を伸ばして、左足を曲げて右足の上ののせる。 ・左足の指の間に右手の指を挟むようにし、足の指を反らしたり曲げたりする。次に左右に曲げる。 ・足首を回す（ゆっくり大きく左まわし→右まわし） ・両足を伸ばして、足の指を反らしたり曲げたりする。 ◎立ち上がって歩く（裸足） <ul style="list-style-type: none"> ・歩くときは踵からではなく、母趾球の横の部分の親指と人差し指の間に重心がかかるようにする（踵から着地ではなく母趾球の横部分を最初につけるようにして歩くことを伝える） ・後ろ歩きをすると、意識しなくても母趾球の横の部分を使って歩くことができることを伝える。 ◎マットに仰向けで寝て、パートナーの人が寝ている人の足の裏に手を添える。（寝ている人の片足の膝が90°になるように曲げる） <ul style="list-style-type: none"> ・足の裏に手を添えて、仰向けになっている人は手を押し返すように足を伸ばす。（足の裏に手を添えるのは、足の裏全体→かかと→小指側の足の前部分）<この時、手の添え方に注意。手のひら全体ではなく、手の親指の付け根の部分をあてる。>→母趾球の横の部分（順番は自由） ◎立ち上がって、母趾球の横部分を意識して歩く。（体育館 1 周） ② にしまる体操 ◎肩まわし（手のひらを上にしたまま回す） ◎シーソー ◎くっしん（にしまるスクワット） ※母趾球（足の裏の親指の付け根にあるふくらみ） 	高等部 (1、3年生) 3名
令和 2 年 11月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：西條接骨院 西條 誠人 氏 ・場所：阿南支援学校ひわさ分校体育館 	高等部 (1、2、3年)

9:35~10:20

- ・内容
- ① 足首を回す（先週の続き）
- ② にしまる体操
- ◎肩まわし
- ◎シーソー（かかとおとし）
 - ・指をあげる（第一趾と第二趾のつけ根の間に重心を持っていき踵をできるだけ高くあげる。踵に重心をもっていき趾をできるだけ高くあげる。）
- ◎くっしん（にしまるスクワット）
 - ・胸をはっておしりを突き出すようにおじぎをする。手を膝にあて、そこから太ももにお腹と胸をつけていきながら、ゆっくりしゃがむ。次にお尻のみあげ、頭を天井の方にあげながら、お尻を引き締めて体をおこす。
- ◎前後屈
 - ・前屈時、趾を上げ踵に重心をのせる。後屈時は踵を少し浮かせるようにし、重心を趾のつけねにのせる。
- ◎側屈
 - ・倒すのと反対側の脚に重心をかける。
- ◎回旋
 - ・捻る側の脚に重心をのせる。
- ◎仰向けで寝る（リラックスして、手を伸ばして手のひらは上を向ける）
- ◎仰向けで寝て、両膝90°に曲げる。両手を天井に向け、前に伸ばす。
- ◎仰向けに寝たまま、両膝を立てて、左右に倒す。
- ◎四つん這い（前後に進む）
 - 足と手は、左足を下げながら、右手を下げる。（交互に動かす）
- ◎マットの上で立って、足踏みをする
 - その力を走るようにするには？
 - 体を斜めに<前に倒すように>して地面を踏みしめる
- ◎壁に両手をついて、地面を踏みしめる（両手をつけたまま、壁を押しようにして走る）
 - 気をつけること→姿勢（体を反らさない、お腹を出さない、猫背にならない等）



生) 4名

令和2年
11月26日(木)
9:35~10:20

- ・講師：西條接骨院 西條 誠人 氏
- ・場所：阿南支援学校ひわさ分校体育館
- ・内容
- ① 足首を回す（先週の続き）
- ② にしまる体操
- ③ マットの上で四つん這い
- ◎マットの上で腕立て伏せの姿勢
 - ・脚を交互に胸の下に引き寄せる。（右



高等部
(1、2、3年
生) 5名

→左→右)

・最初はゆっくり、右、左と交互に動かす。

・できるようになれば、飛び跳ねるように左右連続（もも上げみたいにはしない）



④ 体育館を裸足で歩く（距離はコーンからコーンまで）

◎後ろ向きで歩く→目線、下を見ない。

・歩くときは踵からではなく、母趾球の横の部分の親指と人差し指の間に重心をかける。（踵から着地ではなく母趾球の横の部分を最初につけるようにして歩くことを伝える。）

・後ろ歩きをすると、意識しなくても母趾球の横の部分を使って歩くことができる。

◎前向きで歩く→目線、下を見ない。

・母趾球の横の部分の親指と人差し指の間に重心がかかるようにして歩くことを伝える。

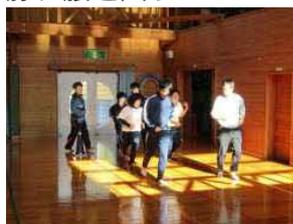
◎前向き、後ろ向きを3～4回する→母趾球の横の部分の親指と人差し指の間に重心がかかるようにして歩くことを伝える。

⑤ 走る（距離はコーンからコーンまで）裸足でゆっくり

◎並んで体育館を5周走る（ゆっくり）

⑥ 整理体操

・肩まわし→首まわし→屈伸→膝、腰を回す



③ 活動の成果

西條先生が毎回サポートスタッフに入っている海部川風流マラソンが今年はWebによる開催ということで、主催者に交渉をしてくださり、今回は特別に高等部の生徒全員で参加をさせていただいた。

体育の時間に通学路を使って1周約500mのコースを設定して走った。坂道の上下りがきつく大変なコースであったが、リレー形式で1人2周をノルマとし、1時間で約5Kmずつ走り、42.195kmを目指して走った。指導していただいた体操で体の使い方や走り方が変わってきたと感じた。特に上りでの走りが粘り強くスピードが落ちることなく、走った生徒全員の記録が向上した。また、走るだけでなく、体の使い方や体力の向上を今後も継続して取り組みたい。



④ 今後の課題

本校生徒の運動課題は体力作りであるが、生徒数が少なく、集団での活動は限られてくるので生徒一人一人が課題を持って取り組むことが大切になってくる。ランニングなど継続して取り組めるような内容を考え、個々に応じた目標設定や教員の関わり方、個別指導の検討が重要になってくる。今回の事業により外部講師から指導や助言を受けたことを繰り返し実践し、日頃の体力作りや校内での指導体制にも役立てていきたい。

5 おわりに

本研究では、児童生徒のスキルアップと教職員の指導力向上をねらいとしてトレーナー派遣を行った。5校の取組において、各校の実態に応じた充実した活動が展開され、児童生徒はさまざまなアプローチによるトレーニングで、楽しみながら技能を向上させることができた。今年度は地域のスポーツイベントやスポーツ大会に参加することが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から難しい年であった。しかし、そのような中でもマラソン大会へのオンライン参加という新しい試みも見られた。

特別支援学校の児童生徒のスポーツライフをより豊かなものにしていくためには、在学中から授業や放課後活動でスポーツに参加する機会をつくるとともに、卒業後もスポーツを継続するために、地域のスポーツクラブへの参加促進やオンラインによる指導等も検討していきたい。

Ⅲ-2 障がい者スポーツ理解促進事業

徳島県障がい者スポーツ協会
(社会福祉法人徳島県社会福祉事業団内)

1 はじめに

当協会では、障がい者スポーツの普及・促進、事業成果を未来につなげる(レガシー)のため、各種スポーツ大会の開催、とくしまパラスポーツ人材バンクを活用した、トレーナー等による技術指導を実施すると共に、パラスポーツイベント等に文化・芸術を活用するなど、より多くの方々が楽しむことができるよう新たな事業展開を図ってきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのスポーツ大会やスポーツイベントが延期または中止となり、特に障がい者の方々がスポーツを楽しむ機会が失われてきた。

このような中、アフターコロナを見据え、「新しい生活様式」に合った「新しいカタチ」でのスポーツ活動が求められ、オンラインの活用や規模の縮小、ルールの変更等の様々な工夫をしながら、障がい者の方々が継続的にスポーツをできる環境を整える。

2 事業の目的

障がい者施設等においては、現在もスポーツイベントやスポーツ大会への参加を控えている状況が続いており、障がい者の運動実施率が低下している。

そこで、障がい者施設等をネットをつなぎ、オンラインスポーツ交流大会を実施することで、障がい者の運動実施率の低下を抑制するとともに、スポーツの楽しさを改めて実感していただくことを目的に開催する。

3 事業の概要

【開催日時・場所】

令和3年1月24日(日)午前10時から午後4時分まで
徳島県立障がい者交流プラザ体育館

【事業名称】

2021頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル

【参加者数】

約200名

【開会セレモニー】

オープニングダンス

※スペシャルオリンピックス日本・徳島

【イベントを通じた演出】

1. オンラインパラスポーツ対戦

「デモンストレーション」

オンラインターゲットボッチャ

2. パラスポーツ講演会

「小児科医がかかわってきた障害者スポーツ」

講師: 多田羅 勝義 氏

(徳島文理大学保健福祉学部長)

※電動車椅子サッカー日本代表選手2名

オンライン出演



3. 障がい者スポーツ交流大会・体験会

<オンライン交流大会>

オンラインでの指導でも、参加者が理解しやすいようルールを変更し、離れた場所でも一緒に楽しめるよう工夫を行った。また、パラスポーツ人材バンクに登録している指導者やサポートスタッフに協力していただくことで、スムーズに運営することができた。

①オンライン「ターゲットポッチャ」交流大会(会場、オンライン参加2施設)

カローリングの的を使い、点数の書かれた的にポッチャボールを投げ、6人の合計点で競い合った。

②オンライン「フライングディスク」交流大会(会場、サテライト会場、オンライン参加1施設)

ディスクを投げる距離を、本来は5mのところを3mと短くすることで、限られたスペースでも競技ができるようにし、たくさんの参加者に楽しんでもらうことができた。

<体験会>※会場内

ポッチャ競技

フライングディスク競技

VR体験会(ジップライン)

①オンラインポッチャ交流大会



②会場での体験会(ポッチャ)



③会場での体験会(フライングディスク)



④高校生によるVR体験会



<連携団体>

徳島県、徳島県社会福祉事業団、徳島県ポッチャ協会、徳島県障害者フライングディスク協会、徳島商業高等学校、徳島県障害者スポーツ指導者協議会

4 成果及び評価

<成果>

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、当初予定していた内容を変更し、オンラインの活用や小規模での開催等、新しい生活様式に合わせ、リアルとオンラインを融合したイベントとして開催した。また、徳島県主催の「eスポーツ」関連事業と同時開催することで、多様なスポーツの有り方の発信を行った。

当日は、パラスポーツ講演会として、電動車椅子サッカー日本代表のチームドクターを務めている、小児科医であり徳島文理大学保健福祉学部長の茅田羅勝義氏に、実体験を基に講演をしていただいた。また、電動車椅子サッカー日本代表の2名の選手にオンラインで出演していただくことで、徳島、東京、鹿児島と離れた場所に居ながら、実際に生の声を聞くことができ、より充実した内容となった。パラスポーツ交流大会・体験会では、スポーツイベントやスポーツ大会への参加を控えている障がい者施設等と会場をオンラインで繋ぎ、交流大会を実施することで、障がいの有無にかかわらず、どこに居てもスポーツを楽しむことができる良い機会となった。オンラインで参加した施設からは、「大会やイベントに参加できず、運動不足になる中で、このようなスポーツの体験ができて本当に良かった」、「施設以外の人とも交流ができて楽しかった」という声が多く聞かれた。また、会場で指導した指導者からは、「このようなオンラインを活用した指導は初めてで緊張したが、沢山のの人に喜んでもらうことができ、今後はオンラインを活用した指導も取り入れていきたい」との意見を聞くことができた。

<徳島県立障がい者交流プラザ体育館における新型コロナウイルス感染防止対策>

- ・検温の実施、マスクの着用、こまめな手洗い・手指消毒の徹底
- ・他の参加者やスタッフ等との距離の確保(できるだけ2mを目安に)
- ・イベント中に大きな声で会話、応援等をしない
- ・新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)や「とくしまコロナお知らせシステム」等の通知サービスを活用する 等

<アンケート結果>

- ・アンケートの回収数は200人中14件
- ・年齢層は10代未満から30代の方が半数近くを占めていた。
- ・今回のスポーツ体験では、「楽しかった」との回答が大半であり、特に楽しかった内容については、ボッチャやフライングディスクの他にもeスポーツが楽しかったと答える人が多かった。

<考察>

オンラインを活用したイベントを行うことにより、離れた場所でも繋がることができ、新たな可能性を見出すことができたが、同時に、オンラインで指導する際の難しさも実感した。今後は、オンラインでも効果的な指導ができるよう指導員のスキルアップや施設等で実践できる職員等の養成が重要であるととも、幅広い競技に対応できる人材を育てることも必要となる。

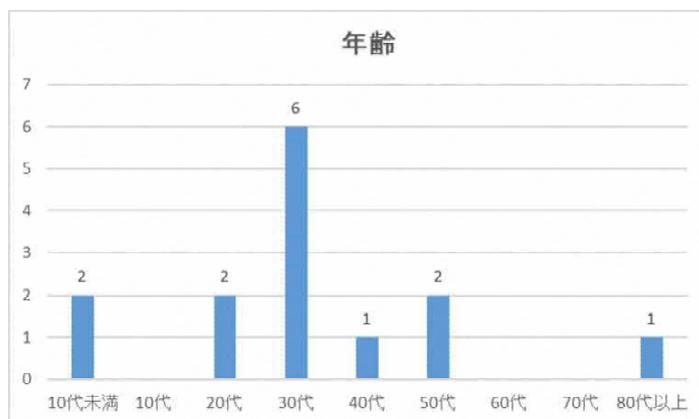
また、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、総合型スポーツクラブや地域のスポーツ推進委員等と連携し、コロナ禍においてもスポーツのできる環境作りを行っていきたい。

沢山のの人に、障がい者スポーツを身近なものとして捉えてもらえるよう、今後も継続して促進イベントを開催し、普及促進を行っていくとともに、オンラインを活用した障がい者スポーツの紹介等、広報の方法も工夫しながら、事業の展開を行っていきたい。

「2021頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル」アンケート集計結果

年齢

No	項目	回答数
1	10代未満	2
2	10代	
3	20代	2
4	30代	6
5	40代	1
6	50代	2
7	60代	
8	70代	
9	80代以上	1
	計	14

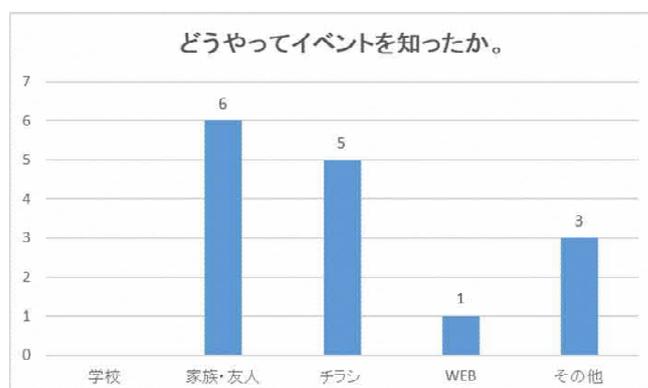


障がいの有無

No	項目	回答数
1	有	4
2	無	10
	計	14

どうやってイベントを知りましたか。(複数回答可)

No	項目	回答数
1	学校	
2	家族・友人	6
3	チラシ	5
4	WEB	1
5	その他	3
	計	15

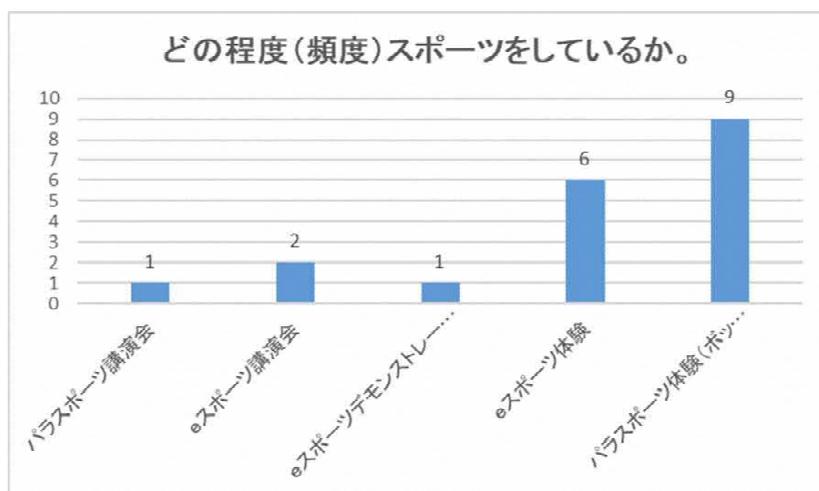


今回のイベントは楽しかったですか。

No	項目	回答数
1	楽しかった	12
2	少し楽しかった	2
3	普通	
4	あまり楽しなかった	
5	楽しなかった	
計		14

特に楽しかったイベント内容を教えてください。(複数回答可)

No	項目	回答数
1	パラスポーツ講演会	1
2	eスポーツ講演会	2
3	eスポーツデモンストレーション(対戦等)	1
4	eスポーツ体験	6
5	パラスポーツ体験(ポッチャ等)	9
計		19



今後イベントで体験してみたいスポーツについて

① 体験したいパラスポーツ名

- 車いす系 1名
- フライングディスク 1名
- ポッチャ 1名

② 体験したいeスポーツ名

- ぶよぶよ 1名

その他イベントに関してご意見などあればご記入ください。

たのしかったです！人も少なくたくさん体験でき良かった 1名の回答

Ⅲ-3 共創共楽スポーツ推進事業

徳島県未来創生文化部国際スポーツ局スポーツ振興課

1 目的

障がい者スポーツの普及等を推進していくためには、各市町村のスポーツ推進委員、レクリエーション協会、社会福祉協議会等と連携して、障がい者がそれぞれの暮らす地域でスポーツを楽しむことのできる環境づくりが重要であり、生涯スポーツ振興の核である総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」という。)においても、障がい者スポーツを推進するための理解や活動の場づくりが進みつつある。

このような背景から、本事業では、総合型クラブや様々な関係機関との連携体制を「共に創り」、身近な場所でスポーツを「共に楽しむ」ことができる環境整備を図ることで、障がい者の継続的なスポーツの実施を促進するとともに、地域における障がい者スポーツ種目の体験・理解を推進する。

2 事業の概要

- (1)障がい者参加型イベント・プログラムの充実・支援
- (2)障がい者スポーツ体験会の実施
- (3)障がいのある人もない人もともに楽しめる場を創る人材の研修の実施
- (4)普及啓発のための広報活動

3 取組内容

- (1)障がい者参加型イベント・プログラムの充実・支援

①車椅子ソフトボール スキルアップセミナー(3回)

日時 第1回 令和2年9月12日(土) 14:00~16:00
第2回 令和2年9月26日(土) 18:00~20:00
第3回 令和2年10月10日(土) 18:00~20:00

会場 鳴門勤労者体育センター

参加者 延べ40名(内、障がい者13名)

内容 NARUTO総合型スポーツクラブと連携して、日頃から車椅子ソフトボールに親しむ方等を対象に、競技レベルの向上や障がい者スポーツの普及・促進等を目的に開催した。

徳島県障がい者スポーツ協会所属の理学療法士や元徳島インディゴソックスの選手を講師に迎え、競技特性を活かした身体の使い方や車椅子の操作、さらに競技力の向上に繋がる投球や捕球の動作技術を学んだ。



②車椅子ソフトボール教室(5回)

日時	第1回	令和2年11月14日(土)	18:00~20:00
	第2回	令和2年11月28日(土)	18:00~20:00
	第3回	令和2年12月12日(土)	18:00~20:00
	第4回	令和3年1月16日(土)	18:00~20:00
	第5回	令和3年2月13日(土)	18:00~20:00

会場 鳴門勤労者体育センター

参加者 延べ50名(内、障がい者20名)

内容 NARUTO総合型スポーツクラブと連携して、障がいの有無に関わらず、誰もが共に楽しむことができる環境づくりや参加者の競技レベル向上などを目的に、「車椅子ソフトボール教室」を開催した。



③車いすバスケットボール教室(5回)

日時	第1回	令和2年11月20日(金)	18:00~20:00
	第2回	令和2年11月27日(金)	18:00~20:00
	第3回	令和2年12月11日(金)	18:00~20:00
	第4回	令和3年1月15日(金)	18:00~20:00
	第5回	令和3年1月22日(金)	18:00~20:00

会場 鳴門勤労者体育センター

参加者 48名(内、障がい者21名)

内容 NARUTO総合型スポーツクラブと連携して、障がいの有無に関わらず、誰もが共に楽しむことができる環境づくりや参加者の競技レベル向上などを目的に、「車いすバスケットボール教室」を開催した。

本教室では、鳴門教育大学の学生などの参加があり、若者へ障がい者スポーツの普及・促進を図る機会となった。



(2)障がい者スポーツ体験会の実施

①ボッチャ体験会

日 時 令和2年10月11日(日)10:00~11:30

会 場 勝浦町民体育館

参加者 13名(内、障がい者2名)

内 容 障がいの有無に関わらず、誰もが身近な場所で共にスポーツを楽しめる環境づくりの促進等を目的に、NPO法人K-Friendsや徳島県ボッチャ協会と連携し、地域住民を対象にボッチャ種目等の体験会を開催した。



②ボッチャ交流体験会

日 時 令和3年1月21日(木) 19:00~21:00

会 場 那賀川スポーツセンター

参加者 23名

内 容 地域における障がい者スポーツの振興体制の推進や障がいの有無に関わらず、共に楽しむ場づくり創出や地域住民のスポーツを通じた交流促進などを目的に、Rexなかがわ、徳島県障がい者スポーツ指導者連絡協議会と連携して、ボッチャ等の障がい者スポーツ体験会を開催した。



③パラスポーツ体験会(2回)

日 時 第1回 令和3年1月16日(土) 10:00~12:00

第2回 令和3年2月6日(土) 10:00~12:00

会 場 海陽町立海南小学校「体育館」

参加者 延べ44名

内 容 障がいへの理解促進や障がい者スポーツの普及・啓発を目的に、NPO法人海陽愛あいクラブ、徳島県障がい者スポーツ協会等と連携して、地域の小学生や教職員、総合型クラブ関係者等を対象にボッチャ、フライングディスクの競技体験や審判員の取り組みを学ぶ体験会を開催した。



(3) 障がいのある人もない人もともに楽しめる場を創る人材の研修の実施

①障がい者スポーツセミナー

日時 令和2年11月22日(日)14:00～16:00

会場 とくぎんトモニプラザ

参加者 15名

内容 地域で障がいのある人とない人が共にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現に必要な情報収集や人材育成を目的にセミナーを開催した。

本セミナーには、総合型クラブ関係者やスポーツ少年団の将来の指導者を目指すリーダー等が参加し、講師から「障がい者スポーツ推進の意義」や「パラリンピック競技の魅力」等を学ぶとともに、手作りボッチャボールの作成、レクリエーションボッチャの実技を通じて、障がいの有無に関わらず、誰もが共に楽しめるスポーツ活動についての工夫や取り組み方の実践方法を学んだ。



②障がい者スポーツフォーラム ～地域におけるパラスポーツの推進～

日時 令和3年1月17日(日)10:00～12:00

会場 石井町立石井中学校「体育館」

参加者 52名

内容 「地域で障がいのある人とない人が共にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現」を目指してフォーラムを開催した。

本フォーラムには、総合型クラブ関係者や地域の中学校、高等学校の教職員や生徒、さらに、身体障がい者連合会等の方が参加し、障がい者スポーツ推進の意義や障がいの有無に関わらず共に楽しむことができる活動事例等を知る機会となった。



(4) 普及啓発のための広報活動

①障がい者スポーツ関連事業の周知

徳島県障がい者スポーツ協会等が実施するスポーツ大会などの各種事業の案内等を県内の総合型クラブに発信した。

②障がい者スポーツの普及啓発

期日 令和2年11月1日(日)

会場 新町川水際公園(とくしまNPO・ボランティアフェア)

内容 とくしまNPO・ボランティアフェアにおいて、障がい者スポーツ関連チラシ等の配布、さらに、ゴールボール競技の試合球やアイシェード等の用具の展示、ボッチャ体験等を通じて普及・啓発を図った。



期日 令和2年11月15日(日)

会場 勝浦町星谷運動公園(かつら元気市&音楽祭)

内容 NPO法人K-Friendsと連携して、勝浦町でのイベント(かつら元気市&音楽祭)に参加された方を対象に、障がい者スポーツ関連のチラシ配布、さらに、パラリンピック種目のボッチャ体験ブースを設営し、普及・啓発を図った。



期日 令和2年12月5日(土)

会場 三好市池田総合体育館(障がい者スポーツサポーター養成講習会)

内容 障がい者スポーツ推進に関わる人材養成等を目的として、徳島県・徳島県スポーツ振興財団が主催する「障がい者スポーツサポーター養成講習会」の参加者を対象に、障がい者スポーツ関連のチラシ配布した。また、障がい者スポーツ関連の冊子等を設置した啓発コーナーを設営し、普及・啓発を図った。

参加者には徳島県障がい者スポーツ協会主催の「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」の開催日程等の情報提供も行った。



期日 令和3年2月14日(日)
 会場 徳島県立西部防災館(にし阿波・パラアスリートスポーツ交流会)
 内容 にし阿波・パラスポーツ推進協議会、徳島県西部総合県民局が主催するイベント(にし阿波・パラアスリートスポーツ交流会)において、参加者等を対象に障がい者スポーツ関連のチラシ配布、さらに、障がい者スポーツ関連の冊子等を設置した啓発コーナーを設営し、普及・啓発を図った。



期日 令和3年3月13日(土)
 会場 道の駅ひなの里かつら周辺(道の駅ひなの里かつら10周年)
 内容 NPO法人K-Friendsと連携して、勝浦町でのイベント(道の駅ひなの里かつら10周年)の参加者を対象に、障がい者スポーツ関連の情報提供コーナーを設営し、普及・啓発を図った。

③障がい者スポーツ普及啓発用リーフレットの作成及び配布
 障がい者スポーツの理解促進及び本事業の実施内容の周知を図るため、リーフレットを作成し、総合型クラブや市町村行政に配布した。



4 実施の効果とあい路

- (1) 障がい者参加型イベント・プログラムの充実
 - ・ 車椅子ソフトボール等の競技種目を継続して実施することで競技力向上を図るとともに、健康づくりや仲間づくりに繋がった。
 - ・ 障がいの理解を持った指導者の養成や障がい者スポーツの指導ができる指導者の確保、身近な場所で活動ができる拠点整備が必要である。
- (2) 障がい者スポーツ体験会の実施
 - ・ 総合型クラブと連携して、様々な地域で障がい者スポーツ体験会を開催することで、参加者の障がい者スポーツへの関心を高め、障がい者スポーツの普及促進を図ることができたとともに、障がいへの理解促進にも繋がった。
 - ・ 地域の小学生や教職員の参加もあり、学校の取り組みに役立つとの声をいただいた。
 - ・ 障がい者スポーツに関わる機会が不足している。
- (3) 障がいのある人もない人も一緒に楽しめる場を創る人材の研修
 - ・ 障がい者スポーツへの興味・関心を高める機会となった。
 - ・ ルールや用具等を工夫をすることで、誰もが同じように取り組めることを知ってもらう機会となった。
 - ・ 障がいへの理解を深めることができたとともに、障がいの有無に関わらず誰もが一緒にスポーツを楽しめる社会を実現できる指導者を目指すきっかけ作りができた。
 - ・ アンケートを実施することで、障がいへの理解促進や障がい者スポーツに親しむ環境づくりの必要性など、今後の取り組みについて参考となる意見をいただいた。(別紙参照)

- ・障がいの有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむには、心のバリアフリーが重要であり、そのためには、日常的に障がい者スポーツに親しめる環境づくりを行い、障がいのある人もない人も一緒に楽しめる機会を増やすことが必要である。
- (4) その他、普及啓発のための広報活動
- ・「にし阿波・パラスポーツ推進協議会」等の関係機関と連携して実施することで広く事業の周知ができた。
 - ・広報活動を通じて、障がいのある方の総合型クラブへの参加促進に向けた啓発を行う中で、障がいや障がい者スポーツのさらなる理解促進を図る必要性を感じた。

5 おわりに

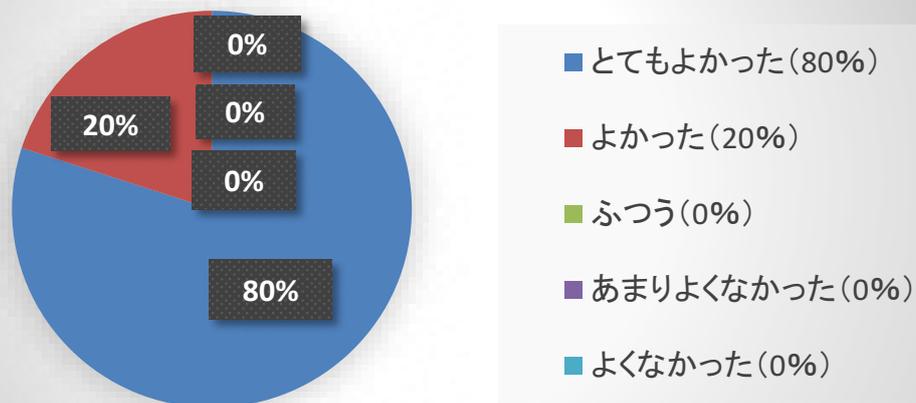
本年度は、新型コロナウイルス感染症予防を、国や県、開催市町村などの指針等に基づき、参加者等への検温やマスク着用、3密回避、手指や用具等の消毒などを実施した。

本事業で浮き彫りとなった課題解決に取り組むとともに、地域スポーツ振興の推進エンジンとしての役割が期待される総合型クラブを核とし、徳島県障がい者スポーツ協会等とさらなる連携体制を「共に創り」、「だれもが・いつでも・どこでも」身近な地域でスポーツを「共に楽しむ」ことができる環境となるよう、こうした取り組みを続けたい。

障がい者スポーツセミナー参加者アンケート結果

- 1 実施日 令和2年11月22日(日)
- 2 会場 とくぎんトモニプラザ
- 3 参加者 15名
- 4 実施方法 事前に配布し、講習会終了後に記入し回収
- 5 回答数 15名
- 6 結果

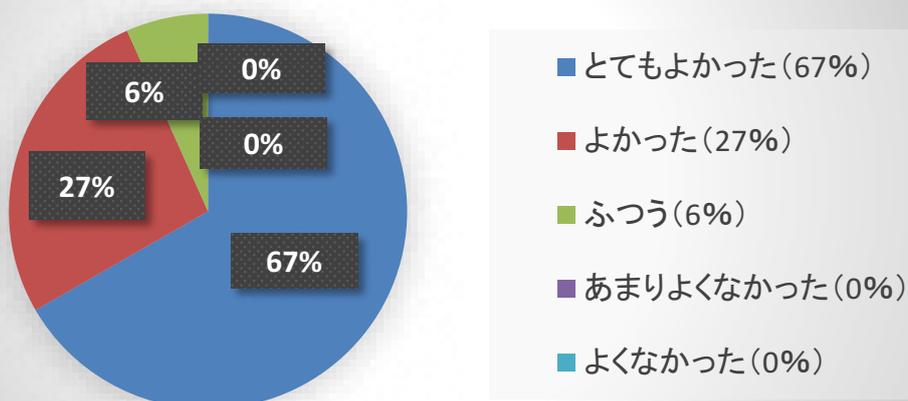
問1－講義の内容は、いかがでしたか



問1－自由記載

- ・パラリンピックについて知識を深めることができて、よかった。
- ・パラリンピックの意義を知ることができたので、良かったです。
- ・いつもありがとうございます。
- ・説明が丁寧でわかりやすかった。
- ・障がい者スポーツのことを詳しく知れたのでよかった。
- ・相手(障がい者にかかわらず)に、関わろうとすることが大事だと、改めて気づけました。
- ・繰り返し学ぶことで、障がい者への考え方も変化するなと感じました。
- ・障がい者スポーツのあり方、やり方がわかった。

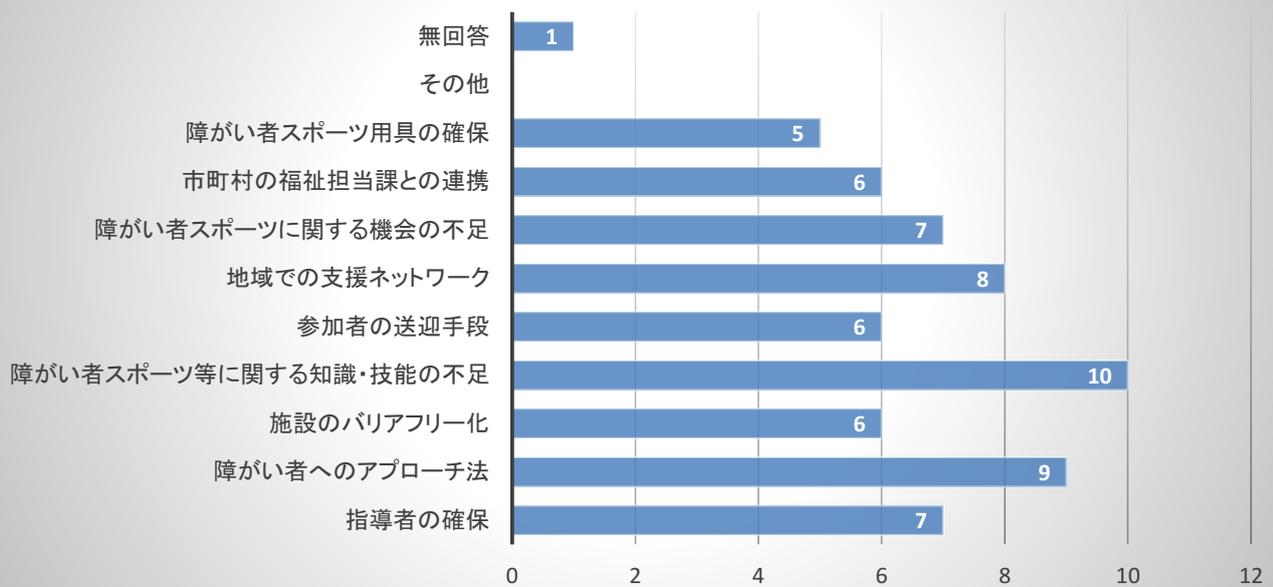
問2－実技の内容は、いかがでしたか



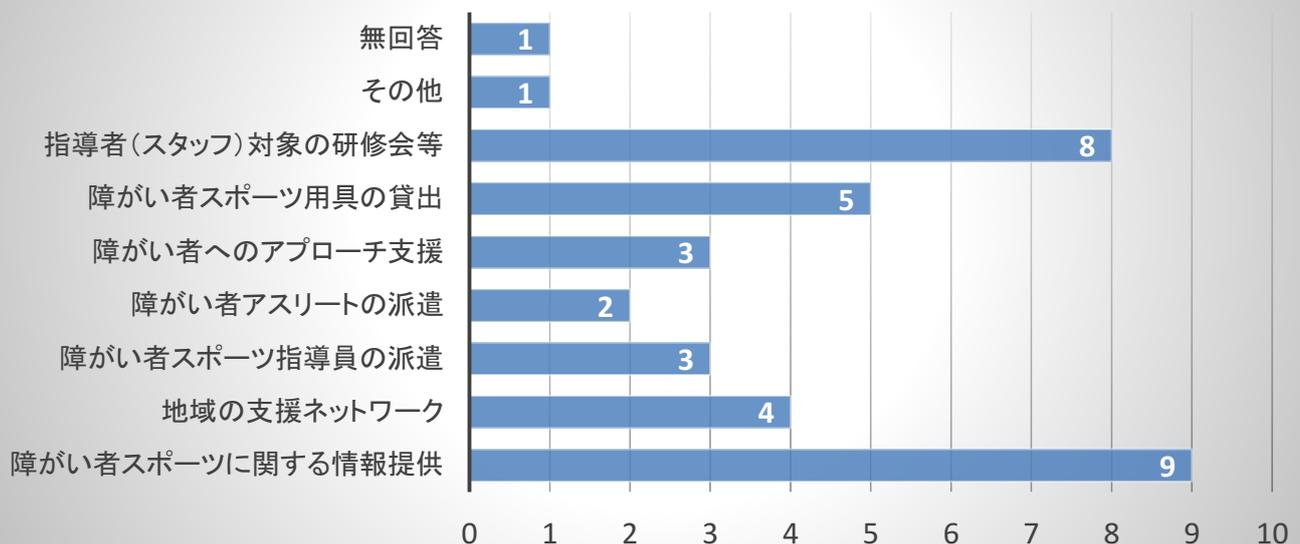
問2－自由記載

- ・単純な遊びでも、意外と楽しくできました。帰って早速、子どもたちといっしょにやってみようと思います。
- ・ポッチャの詳しいルール等を知りたい。
- ・ポッチャという競技を知らなかったので、何を使っているか等がわかった事は良かったと思います。
- ・空書を知ったのが良かった。
- ・手作りボールは子どもたちに作ってもらって遊ぶ。
- ・実際に体験したことがなかったので、できてよかった。
- ・道具は手作りでもOK！「やってみよう」という気持ちは工夫しだいでスタートできる。
- ・時間が短かったのが、少し残念でしたが、1つのもので、多様な遊びができるのがわかった。

問3－障がい者の参加を促進する上で、課題は何ですか (複数回答可)



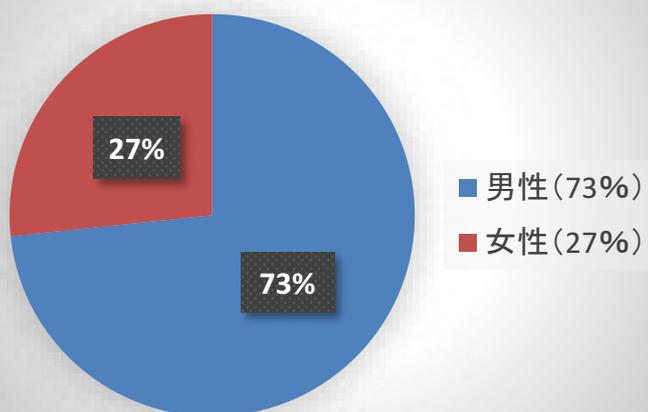
問4－障がい者の参加を促進するため、 希望する支援は何ですか (3つ以内)



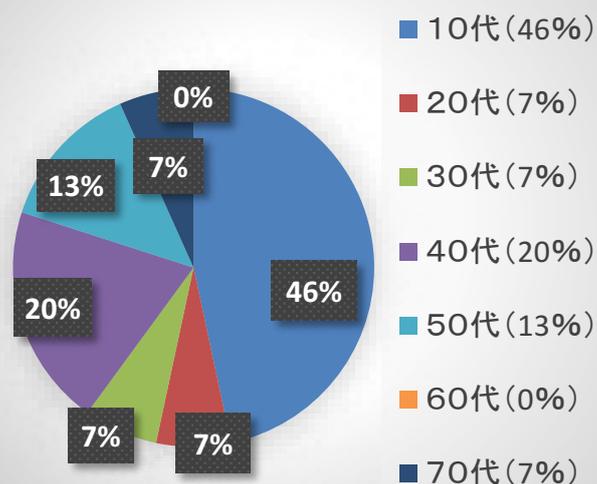
問5－自由な意見・感想等

- ・障がい者スポーツについて、今まで知らなかった様々なことを知れました。知ることは大事だということに改めて気づき、これからも障がい者スポーツについて学び続けていこうと思いました。
- ・参加してよかったです。パラリンピックに興味ができました。来年度が楽しみです。
- ・少しでも障がい者スポーツへの理解が深まるようになれば良いなと思いました。
- ・障がいの有無に関わらず、スポーツを楽しんで仲間づくりがすすむ事を願いながら地道に活動します。
- ・すばらしかった。

問6－参加者：性別

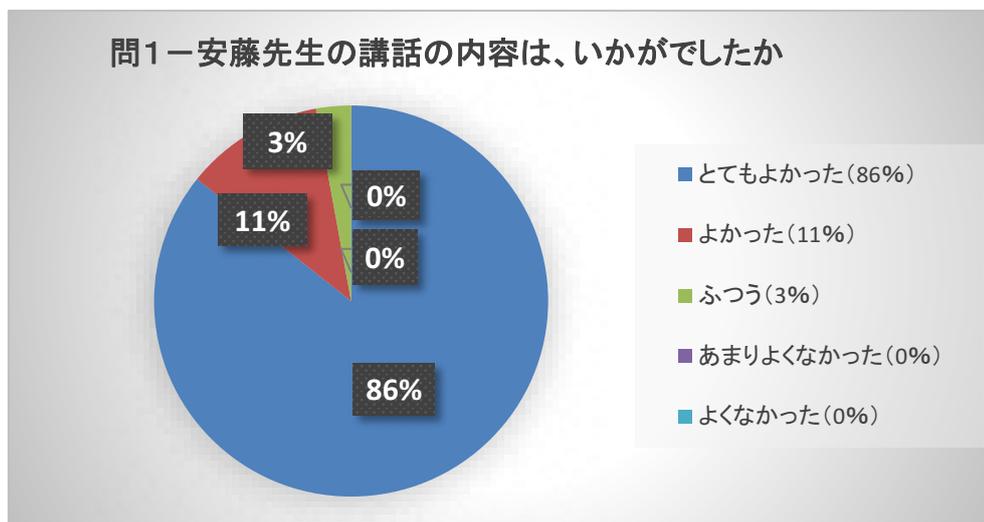


問6－参加者：年齢



障がい者スポーツフォーラム参加者アンケート結果

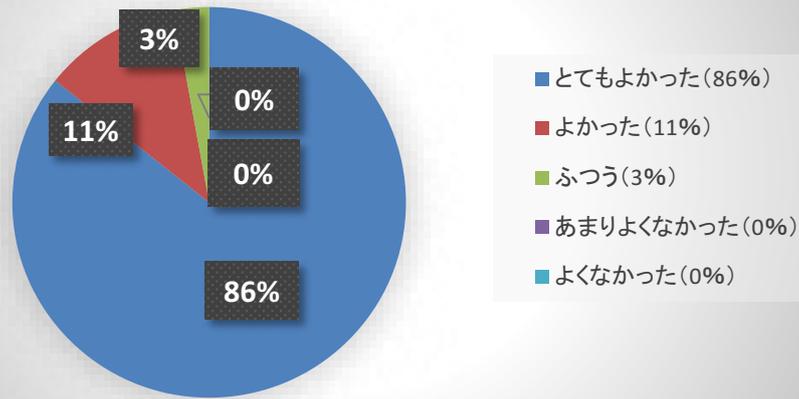
- 1 実施日 令和3年1月17日(日)
- 2 会場 石井中学校体育館
- 3 参加者 52名
- 4 実施方法 事前に配布し、講習会終了後に記入し回収
- 5 回答数 35名
- 6 結果



問1－自由記載

- ・ 障がい者スポーツについて、とてもわかりやすかったです。
- ・ パラリンピックに視覚障がい者が出場できる競技が5つ以上もあることを知り、たくさんあるんだなと思いました。
- ・ パラリンピックにたくさんの種目があることに驚くとともに、講演を聞いてパラリンピックに興味を持ちました。
- ・ パラリンピックについて、以前より興味を持つことができました。
- ・ 障がいがない方とある方が、一緒にスポーツできることを聞き、とても感動しました。
- ・ パラリンピックの重要性、面白さがわかった。
- ・ 知らないことがたくさん知れた。
- ・ とてもわかりやすかった。
- ・ 今回、オンラインで指導いただいた講師に徳島に来てもらいたかった。
- ・ 具体的でわかりやすかった。会場の意見も聞きながら進めた。
- ・ 知らないパラの競技がたくさんあった。
- ・ 視覚障がい者の競技が、そんなにあるとは思いませんでした。
- ・ 心のバリアを取りのぞくことが必要と思った。
- ・ 障がい者の方についてのスポーツなど、新しいことを知りました。
- ・ パラリンピックをみたいと思った。
- ・ パラリンピックの種目など、いろんなことを知れてよかった。

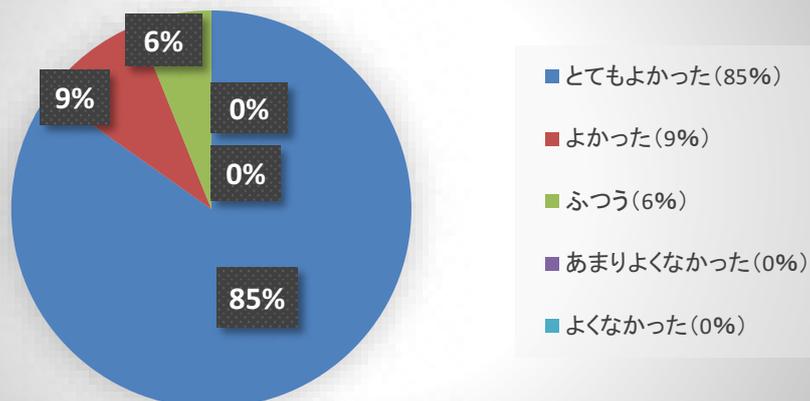
問2－西上先生の講話の内容は、いかがでしたか



問2－自由記載

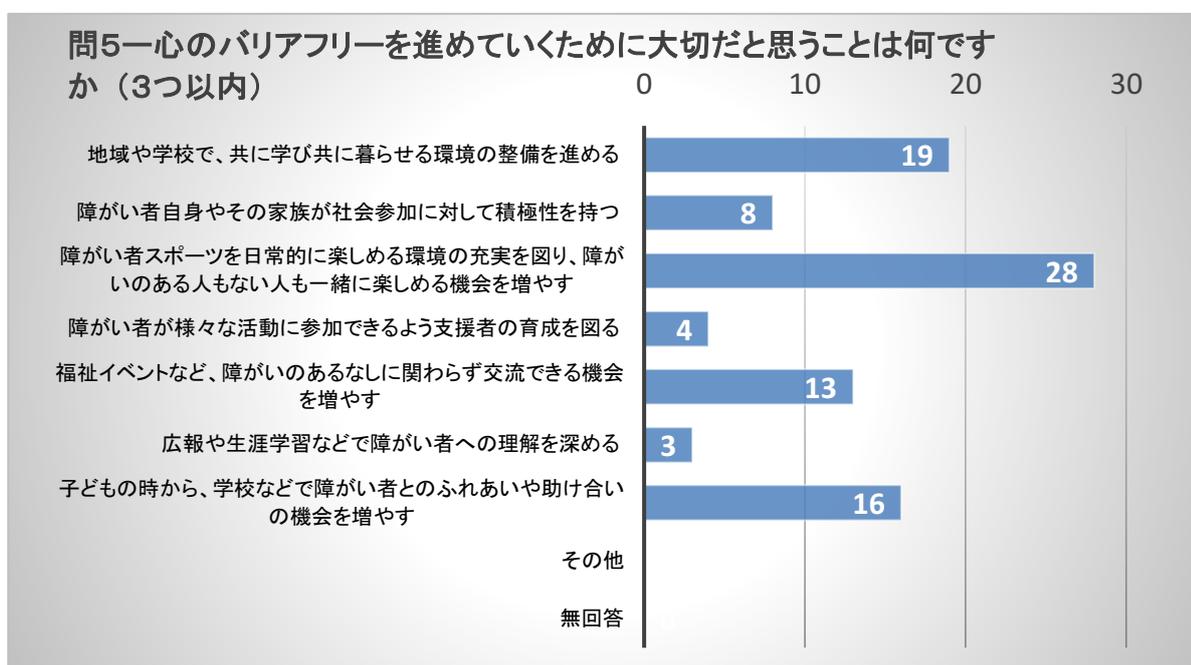
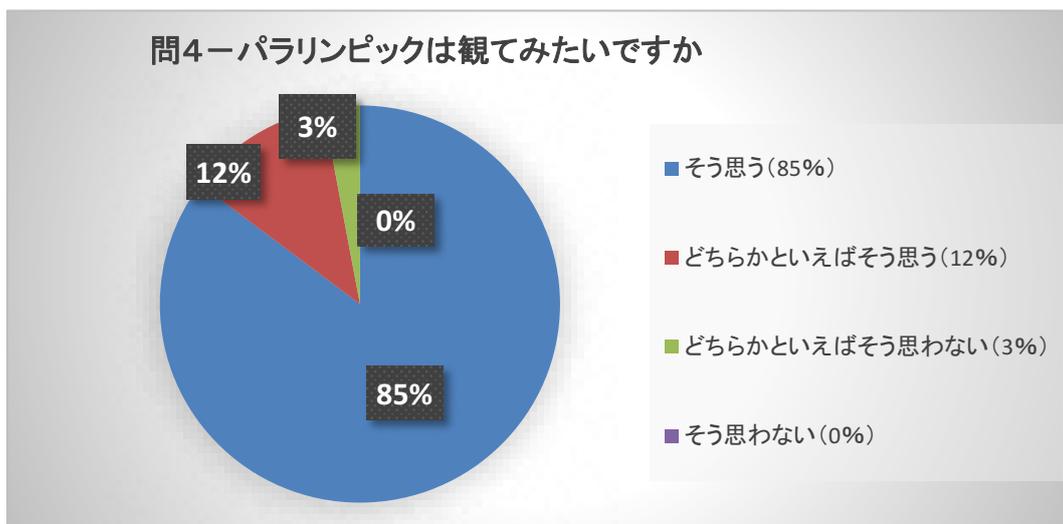
- ・ 西上さんの取組みについて知ることができた。実際に体験してみたい。
- ・ 県内の車椅子ソフトボールについて、知ることができた。
- ・ 車イスソフトボールは野球と違い、なかなかボールが飛ばないのでは？上半身の筋力をつけないとできないんだなと思いました。
- ・ 車いすに乗ってベースまで走るの、大変そうだけど、すごいと思いました。
- ・ 車いすソフトボールを実際にしてみたいなと思いました。
- ・ 自分も車イスソフトボールを体験したいと思いました。
- ・ 車椅子ソフトボールには、特別なボールがあることを知り、おもしろいと思った。
- ・ 障がい者の方の積極性が感じられて、こっちも積極的に交流しようと思った。
- ・ 資料でしか、見たことがなかったので、新しい発見ができた。
- ・ 車いすでソフトボールをするのがすごいと思った。
- ・ 野球、ソフトボールの話が聞けて、よかった。
- ・ 内容はよかったが、プレゼンの資料が小さくて見にくかった。
- ・ 車いすソフトボール、楽しそうと思った。
- ・ ソフトボールを体験してみたいと思った。
- ・ 自分も車いすソフトボールを体験してみたいなと思った。
- ・ 機会があれば、車いすソフトボールをしてみたいと思った。
- ・ バットなどは同じものを使っていると聞いて、すごいと思いました。

問3－実技の内容は、いかがでしたか



問3－自由記載

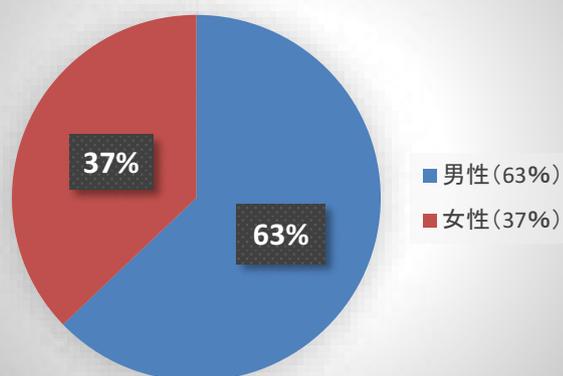
- ・ 難しかった。
- ・ はじめてポッチャをしたが、カーリングに似ている印象だった。
- ・ 実際に行ってみることで楽しさを知ることができた。
- ・ グループで楽しく行うことができ良い経験になりました。
- ・ とても楽しかったです。
- ・ とても難しかったが楽しく、できたときの達成感があった。
- ・ 意外と難しかった。その分楽しかった。
- ・ 実際に経験してみて、とても楽しかった。
- ・ 楽しかった。
- ・ ポッチャを学ぶ4つのパターンがあり、それぞれ楽しむことができた。
- ・ ポッチャ以外も、とても楽しかった。
- ・ とても難しかったけど、できたときは嬉しかった。
- ・ いい体験ができて楽しかった。
- ・ ポッチャをはじめてして、楽しかった。



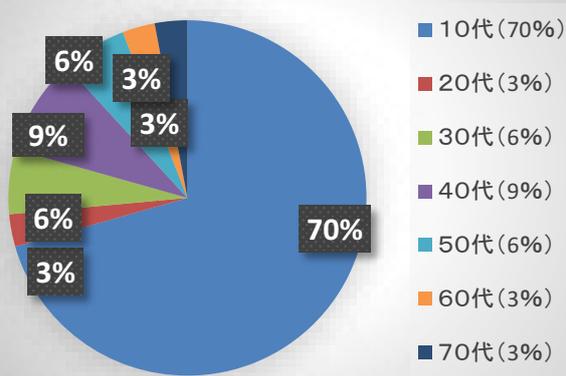
問6－自由な意見・感想等

- ・ 今回、高校生の参加がほとんどだったので、小中学校の生徒と交流したい。
- ・ いろいろな活動をしてみたい。
- ・ また参加したい。
- ・ もっと知識や理解が必要だと思った。
- ・ よい体験ができた。
- ・ あまり多人数での室内講演は気が進まない。内容は良かったと思う。
- ・ 良い話だと思ったが、コロナの中、講演はどうかと思った。危機感がないと思った。
- ・ ボッチャに使われたボールが思っていたよりも軽かった。
- ・ 障がい者スポーツについて、楽しく知ることができて良かったです。今日はありがとうございました。

問7－参加者：性別



問7－参加者：年齢



令和2年度スポーツ庁委託事業
「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

令和2年度障がい者スポーツ推進プログラム
令和3年3月 発行

発行 徳島県未来創生文化部ダイバーシティ推進課